

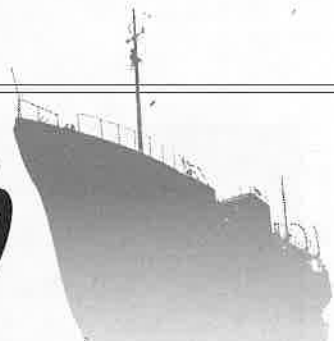
2010.03.01
No.356

(3・4月合併号)

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org

福竜丸だより



フォトジャーナリスト島田興生さんの「水爆の島マーシャルの子どもたち」のパネル展がマーシャルの首都マジロで開催されている（寄稿文6面）

3・1ビキニ事件から56年 核兵器の脅威をつたえた 船とともに

第五福竜丸が「死の灰」を
あびた一九五四年三月一日の
ビキニ水爆被災事件から五六
年が経ちます。アメリカが
行なった最大級の水爆ブラボ
ーがもたらせた被ばくと環境
への放射能汚染は、全国的な
影響となり漁業被害とともに
放射能雨による農作物や子ど
もの健康への不安を引き起こ
し、市民の日常生活に水爆の
影が迫りました。

水爆実験は即時止めてもら
いたい、原水爆反対の声が広が
り、それは世界にも伝えられて
いきました。ビキニ事件は、広
島・長崎原爆での甚大な被害
被爆者の苦しみを広く知らせ
ることにのみならず、被爆者運動の
契機ともなりました。

四〇年以上にわたり原水爆
禁止運動を追い続けるジャー
ナリストの岩垂弘さんは近著
『核なき世界へ』のなかで
記しています。

——「核兵器の恐ろし

さ」「核兵器がもたらす危
険」を世界に訴えつづけてき
たのは日本のNGOだった。
一九五四年以来の半世紀に及
ぶ「反核」の訴えが、やっと
国際政治のリーダーたちを動
かすに至ったとみていいだろ
う——

*

五月には核不拡散条約再
検討会議が国連で開かれま
す。核兵器のない世界を求め
る声のますますの広がりがも
待されます。

第五福竜丸展示館は、被爆
六五年の八月にむけて、八
原爆の子V片岡脩さんの平
和ポスター展と記念コンサー
ト「原爆小景―ヒバクシャと
ともに」を開きます（2・3
面に詳報）。第五福竜丸を遺
した人びと、核に翻弄された
人びとの想いを受け継ぎなが
ら、展示館からの発信、それ
が大きな波紋となり広がるこ
とを希います。

ひびきあう福竜丸のしらべ △原爆小景▽ヒバクシャとともに

林光さん―現代を代表する作曲家の一人です。

交響曲、協奏曲、室内楽、合唱曲、劇・映画音楽、オペラ、校歌、そして「林光ソング」。

加えて執筆に音楽教育にと多彩な活動で知られます。そこには人間・社会・歴史への鋭い洞察が光ります。



東京混声合唱団

館三〇周年の記念コンサート。そしてビキニ被災五五年の記念コンサートです。

このふたつのコンサートから福竜丸に捧げる曲「ラッキ―・ドラゴン・クインテット」が生まれました。

このときの林さんのブログ「光・通信」に「このコンサ



船先の下で

林光

トがどこよらの音楽ホールを借りてではなく、第五福竜丸の前で開かれることには、格別の意味がある。アメリカ合衆国のスミソニアン博物館で△原爆小景▽を演奏するなんて企画をだれか立ててくれないものか」と記されています。

を求めたたかっています。しかし、広島・長崎以後、ビキニ事件をはじめたくさんのヒバクシャがつくられてきました。ですから、このコンサートはヒバクシャとともに迎えた。と思います。林さんの「原爆小景」と「いのち」「子どもの心」「希望」をテーマにした音楽会を創りたい。東京混声合唱団、寺嶋陸也さん（ピアノ）と、そしてお越しくださるみなさんとともに。
(展示館学芸員 安田和也)

どのようにでも取り乱して書くことができるであろう、惨劇への怒りと悲しみの心がこのように端正に、詩の踏むべき根本を歩み、純度を保って書くことが出来るのか。

これらの詩には音楽が必要だと、そのとき思ったが、二〇歳になるやならすのぼくはその手だてを持たなかった。

やっと「水ヲ下サイ」を作曲することができたのは一九五八年だった。その間に一九五四年の、太平洋ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験、

一九五一年の初夏だった、と思う。新橋駅ちかくの書店で、出版されたばかりの『原民喜詩集』を手に入れた。詩人の死からいくらか経ってはいなかった。一読、巻中の「原爆小景」に打たれた。

そして第五福竜丸の被災が起きていた。ヒロシマ・ナガサキの死者、被爆者、またその家族の皆さんはなんたることかとお思いだろうが、二ホン国民ぜんたいが核兵器への恐怖をホンキで感じたのは、このときからだったのだ。

「水ヲ下サイ」の翌年、一九五九年に、近代映画協会製作『第五福竜丸』の映画音楽の仕事が来た。新藤兼人力ントクとの出会いである。「水ヲ下サイ」を聴いたある人の薦めがあったと聞いた。

ここにおいて、ぼくの二つの仕事「水ヲ下サイ」と「第

第五福竜丸展示館コンサートひびきあう福竜丸のしらべ

5月9日(日) 午後4時半から

<チケット申し込み方法>

枚数・住所・氏名を明記のうえ郵便かFAXで。

*被爆者50人をご招待。住所・氏名・被爆した場所・被爆者としてのメッセージ(200字程度)を明記して郵送かFAXで。

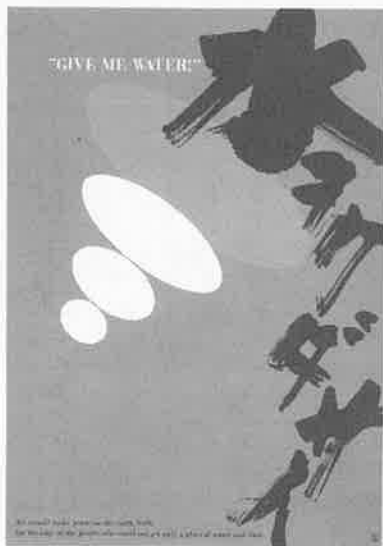
〒136-0081 江東区夢の島2-1-1 第五福竜丸展示館コンサート係

TEL03-3521-8494・FAX03-3521-2900

五福竜丸」は、つながるべくして一つにつながったのだが、そのことをぼくがやっと実感したのは、何十年のうちに、第五福竜丸の船先の真下で「ラッキ―・ドラゴン・クインテット」(『第五福竜丸』の音楽にもつづくピアノと弦の五重奏曲)が演奏されたときだった。

「水ヲ下サイ」にはじまった「原爆小景」の作曲は四三年後の二〇〇一年に完結した。五月九日には、その最終章「永遠(とわ)のみどり」が「水ヲ下サイ」と合わせて演奏される。(2010年2月24日)

いまに生きる・原爆の子
片岡 脩さん
平和ポスター展
 5月9日～8月15日



<水ヲクダサイ>
 いまこそ私たちが和解放しなくは死
 らないのだ。一杯の水を飲めずには
 んでいった人びとのために。

「原爆小景」コンサート
 の五月九日から夏までの三カ月
 間、グラフィックデザインナ
 ー片岡脩さん（一九三二～
 一九九七）の作品展を開催し
 ます。

原爆の子

片岡脩さんは、一九四五年

八月六日、爆心地から八〇〇
 メートルで被爆（旧制広島県
 立第一中学校、現・国泰寺高
 校）、奇跡的に一命をとりと
 めました。一三歳でした。市
 役所に勤めていた父は即死、
 長兄は一年後に死去。母と姉
 二人も被爆しました。

その被爆体験を片岡さんは
 『原爆の子―広島の子』の少年少女
 のうったえ』（長田新編・岩
 波書店）に寄せています。

冒頭「戦争が生んだあの惨
 劇を、一齣も思い出したくは
 ない。だが一瞬にして数十万
 の尊い人命を無残に殺戮し、
 この広島を砂漠たらしめたあ
 の惨劇を、身をもって体験し
 た人々の心からの叫びは、戦
 争を再び繰り返すな」という
 語につぎ「さう」と記し、
 被爆の様態を詳細に描写して

います。

原爆症とのたたかい

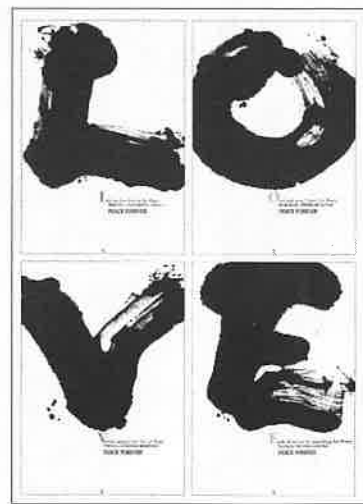
東京芸大卒業間もなく結
 婚。資生堂宣伝部、サントリ
 ー宣伝部、早川良雄デザイン
 事務所を経て、「シウ・グラ
 フィカ」を設立しますが、妻
 恒子さんによると、二年に一
 度は入院していたそうです。

下顎骨腫瘍、肺がんなどを
 患い、六五歳で死去、その後
 に行われた病理解剖では、肝
 臓にも骨にもたくさんのが
 ンがみつかり、「被爆の故で
 は？」との所見であったとの
 こと（片岡勝子・片岡脩句集
 『流燈』片岡恒子編 あとが
 き「二人によせて」より）。

友たちへの思い

そのような病身であったに
 もかわらず、大関酒造、産
 経新聞題字、東洋ガラスなど
 多くの企業デザインを手掛
 け、一九六八年から愛知県立
 芸術大学で教鞭をとり多忙を
 極める日々を過ごしました。

「友人たちを助けることが
 できず、自分だけ生き残った
 という負い目が強くあって、
 友人たちの分まで頑張らなけ



<LOVEのポスター>
 それぞれの文字から始まる英文
 メッセージが描かれている。「E・
 ムッセリひとり」が描けること
 がある」

ればと病弱な身にむち打って
 いたのでしよう。」（土田ヒロ
 ミ『ヒロシマ2005』NH
 K出版）

平和ポスター制作へ

原爆、広島からあえて距離
 を置こうとしていた片岡さん
 でしたが、転機が訪れます。

一九七五年、初めて訪れた
 ポーランドで、幼い子どもか
 ら「ジャパニーズ？ヒロシマ、
 ナガサキ！」と声をかけられ
 たのです。

この体験がきっかけとな
 り、平和ポスター一〇〇枚制
 作に取り組みます。「LOVE
 E」「PEACE」をはじめ、
 時には「南無阿弥陀仏」、「般
 若心経」などもモチーフに選
 ばれました。

その一つ「PEACE」の
 Cを頭文字にとってメッセー

ジが描かれています。「生きて
 子どもたちに、さらに次の世
 代に伝えたいことがある」残
 念ながら七四枚を作り上げた
 ところで生涯を閉じることと
 なりました。

今を生きる人たちへ

ポスター展は広島、ニュ
 ーヨーク、沖縄、ワルシャワ
 などでも開催。被爆六〇年の
 二〇〇五年には、三宅一生文
 化財団のギャラリーでも展示
 されました。三宅一生さんは
 片岡さんの高校の後輩にあた
 り、美大受験にあたり片岡さ
 んが手ほどきした間柄でした。

展示されるポスターは約
 二五〇点。原爆犠牲者への思い、
 平和への希求…。「原爆の子」
 片岡脩さんの心に見入ってい
 ただければと思います。

（展示館学芸員 市田真理）

ラッキードラゴンとの出会い

都賀 城太郎

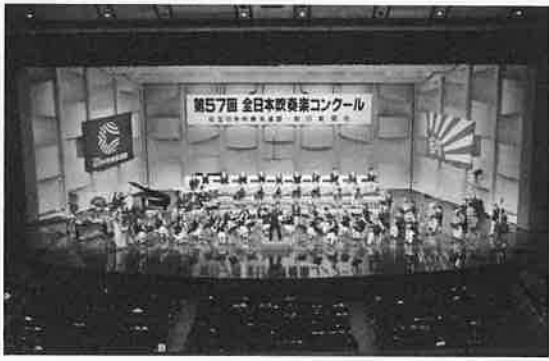
「今年のコンクール自由曲は何やるの?」「うちは第五福竜丸を題材にした曲でね。」「第五福竜丸って、たしか千葉県沖で事故に遭った船でしょ……?」

それから二ヵ月後のコンクール県予選。ある人にその話をしたところ、「えーっ。違うのー?」との反応。何としてもこの曲を世に出さなくては、と強く思った。

原水爆禁止運動と出会う

大学に通いながら研究補佐員の仕事をさせてもらっていた気象研究所(当時は杉並・高円寺にあり、地球化学研究部長として猿橋勝子先生も活躍されていた)で「今年の夏、広島へ行ってみないか?」と声をかけられたのが一九七七年のこと、職場代表として統一杉並代表団の一員となり、初めて原水爆禁止世界大会に参加させてもらった。その後世界大会への参加や、毎月6・9(ろくきゅう)活動「八月六日・九日に因んで行っていた署名活動」、3・1ピキニデーなどの署名活動にも参加するようになり、いつしか事務局の一員になっていた。

こうした活動の中で、ピキニ事件のときに真っ先に立ち上がった婦人の会の中心であった小澤綾子さん、大塚利曾子さんの方々、区議の宮川義男さんから、親しく



09年11月に行われた全日本吹奏楽コンクール



原水爆禁止世界大会へ参加。左端・筆者

色々なお話を伺うことができたことは大変幸せなことであった。

吹奏楽

「ラッキードラゴン」

その後、春日部共栄高等学校に職を得、埼玉に転居後は専ら杉並区職員の妻の応援をしながら三〇年近くが過ぎ、たった一人から始めた吹奏楽部がようやく全国大会に出場できるようになったある日のこと。作曲家の福島弘和氏に、定期演奏会とコンクールの自由曲を兼ねて作曲を依頼したところ、「ラッキードラゴン」という絵本を題材にした曲を書きたいと常々思ってきたの

だかどうか」との答え。そして絵本を見てみると何とあの第五福竜丸。かつての活動が甦り、これは絶対自分がやるべき、と曲の仕上がり前から決め込んでいた。これを演奏すること、どれくらいの人々にアピールできるか、特に吹奏楽コンクールでは、金賞を受賞した曲は極めて注目度が高く、CDなどで多くの人に聴いてもらえる上、翌年に他団体によって演奏される確率が高い。

普門館・金賞への道

これこそ自分に与えられた使命と思い、まずは定期演奏会で演奏。何とこれが評判良く、我が校初のライブCDとして世の中に発売されることになった。そしてコンクール。

演奏する生徒たちが熟知しなければ更なる説得力は生まれない。そこで生徒と共に映画『第五福竜丸』、『ヒロシマナガサキ』、ライブ演奏『ラッキードラゴン・クインテット』の鑑賞、そして第五福竜丸展示館への訪問、曲に合わせたストーリーやナレーションの制作、曲の身体表現等、演奏

の練習以外にも多くの時間を費やした。そして県大会本選、西関東大会へと進み、ようやく辿り着いた全日本吹奏楽コンクール。

「一番、西関東代表春日部共栄高等学校、自由曲は、福島弘和作曲『ラッキードラゴン』第五福竜丸の記憶」：「アナウンスが会場に響き渡り、全国から集まった五〇〇〇人の聴衆の前で演奏する時が来た。そして発表。「春日部共栄高等学校、ゴールド金賞!」生徒、私、作曲者の福島氏、駆けつけてくださった展示館の安田学芸員など応援してくださった皆の目が光っていた。

*

つがじょうたろう 春日部共栄高校吹奏学部顧問。日本管打・吹奏楽学会執行役員、西関東吹奏楽連盟事務局次長、埼玉県吹奏楽連盟理事、21世紀の吹奏楽、響宴、会員。

春日部共栄吹奏学部ライブCDは、『ストコフスキーの鐘』というタイトルで、全国のCDショップや第五福竜丸展示館でも販売している。

連載②

晴れた日に
雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

広田さんの
シュークリーム

広田重道さんは、事務所を訪れるときには何かと手土産を持参されるのが常でした。いつのころからかその手土産が「ヒロタ」のシュークリームとなりました。そのネーミングを洒落と感じさせないほどに、広田さんの態度はいつもと同じさりげないものでした。

東友会に事務所を置いて

第五福竜丸保存委員会が発足したのは一九六九年の七月でした。保存委員会は個人による組織とすること、呼びかけ人八八氏を代表委員として、

世話人に岩垂寿喜男、吉田嘉清両氏を選出、日常業務の執行に若干の常任委員をおくこととしたのでした。そして事務所をとりあえず東友会（東京都原爆被害者団体協議会）気付けとし、一般募金は中央郵便局の私書箱を使うことにしたのでした。

東友会の事務所は新橋の平和と労働会館の二階でした。この同じ階に隣合って日本原水協の事務所がありました。東友会の机は満杯です。保存委員会世話人の吉田さんは日本原水協の事務局長です。了解をえて、日本原水協の資料室に机を一つ置くことにしたのでした。保存委員会の連絡や、印刷物の発送などに、半ばボ

ランティアの女性が常勤しました。広田さんは保存委員会の日常業務執行の常任委員として、この「事務所」に通うことになるのです。

ポスターをつくる

当時わたしは日本原水協の事務局で、情報・宣伝の仕事をしていました。広田さんの要請を受け、この「事務所」で保存委員会の宣伝物の作成などに当たりました。最初のポスターは森下一徹君の写真、デザインはわたしの弟がつくりました。デザインの了解を得るために岩垂寿喜男さんの自宅（川崎）に伺ったこともありました。のちにこの「事務所」の机は「ビキニ水

爆被災資料集』作成のために半常勤した林茂夫さんの机として、同書の編集に使われしました。（林茂夫さんと「資料集」のことは稿を改めて述べたいと思います）。

都労連 都庁内に事務所

保存委員会は一九七一年六月の常任委員会、世話人制から専務理事制をとることに、常任委員の神崎清、広田重道両氏を専務理事に互選します。そして七月には都労連の一郭に保存委員会の事務所を置くことになり、広田専務理事が常勤し、都側の担当部局との連絡も容易になり保存運動は一挙に加速していくのです。

現場大切の視点

ありました。都労連事務所は東京都の施設。いわば東京都の身内に保存委員会の事務所を置いて保存の具体化を図るという広田さんの目論見は、見事に実をもたらすのです。

わたしは時折、広田さんに同道して、都庁を訪ねることがありました。担当部局の回り方に広田さんの方策がありました。その順番は、担当課の係に話を通し、そして係長、課長、部長というように、順を追っているのです。もとより話は丁寧語です。知事部局の声のかかる第五福竜丸保存の案件、にもかかわらず広田さんの姿勢は、現場大切の態度で一貫するのです。

この事務所開設には美濃部都知事の特別秘書であった都労連出身の石坂新吾さんの尽力があったことを広田さんが語り残しています。また、知事部局の対応には美濃部知事のブレンとして、革新都政を支えた都政調査会の小森武さんの助力があったといわれています。

都労連事務所はJR有楽町駅の旧都庁舎寄りの高架下に

わたしが福竜丸展示館に来る交通路は、渋谷を経由して半蔵門線から有楽町線に乗り換えるという道筋です。永田町駅のコンコースを通ります。このコンコースに「ヒロタ」のシュークリームを売る店があるのです。看板を目に入れてながら広田さんに曳かれるように夢の島にと向かうのです。（第五福竜丸平和協会顧問）



保存運動の最初のポスター。
リーフレットやチラシも作られた

マーシャル巡礼巡回写真展 〈上〉

島田 興生

写真絵本『水爆の島 マーシャルの子どもたち』を昨年五月に復刊時、発売元の「マーシャルの子どもたち55プロジェクト」は本の普及だけでなく、現地の活動につながるような核実験や被爆を伝える写真パネルを学校や図書館に送りたいと考えた。

そこで写真絵本から一七点の写真を選び、一〇枚のパネルを作り、今年一月下旬から三月にかけて、マーシャルの中心マジュロ島などで、巡回写真展を行う計画を立てた。

イバイの人たちに助けられ メジャト島へ

話を進めるうちに、最初の写真展はたとえ一日でもロンゲラップ島民の疎開先メジャト島で開き、またこの島で眠るネルソン・アンジャインさんのお墓参りも一緒にしたいと思うようになった。ネルソンさんと兄のジョ

ン・アンジャインさんは原水禁運動を通じて日本との大きな掛け橋を担ってきた。しかしジョンさんは二〇〇四年七月に、ネルソンさんは〇六年一二月に相次いで亡くなった。ジョンさんの墓はクワジエリン環礁イバイ島にあり、墓参は難しくない。しかし、ネルソンさんの墓はイバイ島から一二〇キロも離れた辺鄙な島メジャト。渡航するだけでも容易ではない。出発前、イバイ島の何人もの知人に日本から手紙を書き、メジャト島への渡航、ボートの手配を頼んでおいた。

結局イバイ到着後、力にな

ってくれたのは、マーシャル政府クワジエリン事務所のチエルトン・アンジャインさん。一度も会ったことのない私の「親友ネルソンさんのお墓参りをしたい」との願いを聞き入れて、イバイ上下水道局長のR・ナカムラさんに交渉し、



ネルソンさんの墓の横に立つ筆者

水道局所属のスピード・ボートを破格の条件と二泊三日の期間で貸してくれることになった。彼はジョンとネルソンさんの弟チェトンさんの長男であると聞き、今はなき二人の影ながらの力添えを強く感じたのだった。

ネルソンさんの墓参りと 一日だけの写真展

一月一三日、イバイ着の翌々日の午後一時。私はイバイ港を出てメジャトに向かうボート上にいた。このヤマハ製一五〇馬力船外機を二基搭載した高速モーターボートは約六時間、外海に出るたびに激しいピッチングに揺さぶら

れ、舳先の波しぶきを浴び続けて走った。午後七時、船がメジャト海岸に到着したときはすっかり暗くなり、リヤカーで宿舎の家まで荷物を運び、ライスにマグロ缶詰の簡単な夕食をごちそうになると、第一日は終わった。

午前六時、すがすがしい朝の空気に包まれた島に水平線から昇る太陽のやわらかな光がそそいでいる。家の女主人タルキーナさんにこの家のテラスを写真展の会場として借りに行く。泊まった部屋の隣は天井がトタン屋根、三方は金網、コンクリート敷の約一二―三坪の、風通しのよいテラスがついていた。壁に子どもがいたずら書きがあるがそれも気に入らず、昨夜寝ながら考えたこのテラスを写真展の会場にする案を早速実行する。

家は島の東端にあつて、場所的にはやや不便だが、中心部の学校や教会を借りる交渉しているうちに半日が過ぎてしまう。二泊三日といつても、明日の午前九時には島を離れなければならないので、実質三八時間の滞在である。たつ

た一日だけの写真展だから時間を有効に使わなければならない。子どもたちに手伝ってもらい荷ほどきしていると、「ハーイ、シマダ。ウエルカム、メジャト!」と言いながら、タイミンクよく現れたのは、シャイな島民の中では積極派のスウィンレイ・フレディさん(五七歳)。通訳に力仕事に、彼はとても役に立つ。

スウィンレイさんに手伝ってもらい、写真の飾り付けを終えると、墓に飾る花を持って島中央の墓地へ向かう。ネルソンさんのお墓は前方右から二つ目。全部で四〇基あるうち二つ目に新しい墓だ。南国の強烈な日差しが白い墓石をまぶしく照らしている。墓の前に腰を屈め、手を合わせる。「ネルソンさん、ようやく来たよ」と言うだけで言葉がつかまってしまった。墓の前の砂地に穴を掘ってもらい、日本の親しい友人から預かった手紙をビンに入れ埋めた。この墓地の最初の死者はスウィンレイさんの妻ローズさん。二五年前、産後の病にかかるが、イバイ病院に行く船

(7めん下段につづく)

協会顧問 畑 敏雄さんを偲ぶ

公益財団法人第五福竜丸平和協会

代表理事 川崎 昭一郎

第五福竜丸平和協会顧問として長年貢献された畑敏雄さんが昨年二月三十一日に逝去されました。享年九六歳。法人・川崎代表理事の追悼文を掲載します。



的活動におけるテクノクラートでした。

ビキニ水爆被災事件直後、原水爆禁止運動が日本全体に盛り上がった時期に、雑誌『平和』の一九五五年四月号に、畑さんは「日本から全世界の運動へ」と題して同年一月一六日に開催された原水爆禁止署名運動全国会議について紹介しておられます。

畑敏雄さんは大学教員として大先輩ですが、最初にお目にかかったときは学問よりは、教職員組合や平和の活動に重点を置かれていて、大学の研究室におられた時間は少なかったと思います。そして、多様な方々が参加するノンアカデミックな活動においては類まれなリーダーシップ、組織力を発揮されました。平和運動、もっと広く政治

重要な国際会議に招待されて不在だったので、代わって経過報告をされました。

経過報告の中で、畑さんは署名総数の内容を次のように分析しておられます。

■二千二百万署名の半ばまでが総評をはじめとする労働組合によって集められており、組織労働者が力強いバックボーンをなしていること。

■各地域や経営、学校等で結成された〇〇協議会というような署名運動のための統一組織によって集められた署名が八〇〇万にのぼっていること。

■この運動において婦人の力が示されていること。

■学生、地域青年団、医師、宗教団体、在日朝鮮人等がそれぞれに特徴ある活動を展開していること。

今振り返っても、実に科学的で核心をついた指摘でした。

この会議において採択された「全世界への訴え」は次のように述べています。

「広島、長崎の悲劇について、ビキニ水爆実験による、おそるべき原水爆の被害を三たび

まで身をもって体験した日本国民は、ここに二千二百万の署名をもって、厳粛に全世界の人々に訴えます。

原子戦争への道か、かがやかしい平和への道か、世界は重大な岐れ道に立っています。いまこそ全世界の人々が力をあわせて、原水爆の脅威から人類の生命と幸福を守るときであります。この闘いを通じて戦争そのものを永久に絶滅し、かがやかしい未来をきずきあげるときであります。

かがやかしい未来のためには、今こそかたく団結しようではありませんか。そしてその力を本年八月、日本において開催を予定される原水爆禁止世界大会に結集されるよう期待いたします。」

畑さんは常々、「原水爆禁止」という言葉を自分ほどたくさん書いた人はいないと話されていましたが、この訴え文は畑さんが最もエネルギーに活躍された日本の原水爆禁止運動草創期を髣髴させるものです。

私はまだ大学院生の身分で専門委員会の書記として原水爆禁止運動に協力し、畑さん

がなく、三八歳で亡くなった。

家に戻る途中、学校や診療所、ヤシの木などにポスターを貼る。噂を聞いて、村人が三々五々会場に集まってきた。写真の位置を直しながら「無理しても運んできて本当によかった」と率直に思った。

写真パネルは現地の湿気や汚れに配慮し厚手のラミネートでコーティングされ、英語と日本語の二カ国語の説明が入っている。少し感慨にふけっていると、「今夜、村長のジエームス・マタヨシがチャーター機で島に来るよ。グッド・チャンス」とスウィンリイさんが片目をつぶった。一体何がグッド・チャンスなんだろう。(フォト・ジャーナリスト)

(次号につづく)

と一緒に仕事をし、お手伝いさせていただきましたが、畑さんはいつも高い視点からアドバイスを下さり、お叱りを受けたこともしばしばありました。

畑敏雄さんのご功績に改めて敬意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

被爆ピアノのコンサート



広島で爆心から2・5キロの民家で被爆したアップライト・ピアノのコンサートが、1月31日、第五福竜丸展示館で開かれました。

この催しは東京で被爆ピアノのコンサートが開催される機会に第五福竜丸のもとで、ぜひとも演奏会を開きたいという港区在住の汐谷恵美子さんからの協会への要請をうけて実現したものです。広島で被爆ピアノを修復し平和コンサートを開いている調律師の矢川光則さんが全面的に協力しました。

当日は、140人が参加、被爆当時のガラスが刺さった後も生々しいピアノに見入る人もいました。

展示館のイベント・ボランティア算美知子さんの感想より……第五福竜丸ではおなじみとなった寺嶋陸也さんが弾かれたのは、ドビッシェ、ラヴェルや沖繩を題材にした寺嶋作品など音色は優しくもあり迫力満点。小学入学前のお嬢さん、芸大生など若い世代が演奏したのも感激。原爆の子の作文や谷川俊太郎さんの詩の朗読などよい構成でした。寺嶋さんによると「普通のアップライト・ピアノよりも音が最後までしっかりしていた」とのこと。ピアノによく頑張ったね、と言ってあげたいと思いました。自分では口を利かないピアノですが、持ち主の方とともに「原爆になんか負けない」との気持が音色にこもっているようでした。

館山で第五福竜丸の講演

協会評議員、文化財木造建造物修復の専門家である東京芸大客員教授の日塔和彦さんが、1月16日、千葉県館山市で木造船・第五福竜丸について講演しました。

日塔さんは、第五福竜丸の船体保存委員会の座長として、1985～86年にかけての船体補修以来、第五福竜丸の保存に関わられたこと、船体の現状と今後の課題について話されました。

第五福竜丸が被ばく後、水産大学の練習船・はやぶさ丸に改修されて、館山を基地に学生の演習航海に使用されたことから、当時の資料などの収集についてもよびかけました。

会場には、はやぶさ丸の元乗組員2名をはじめ造船関係者などが参加、当時の写真やはやぶさ丸の活動について情報を寄せました。

最近の第五福竜丸 展示館から

◇朝日新聞（1月13日）、きょういく@東京の『現場』探検、平和を再考』で、近現代史の遺された現場をフィールドワークする歴史学習の実践をつづける田園調布学園の川口重雄教諭の取り組みを紹介。さらに博物館や資料館の次世代に伝える取り組みとして、第五福竜丸展示館でのボランティアガイドによる説明・案内の活動を紹介しました。

◇こうとう区議会だより（1月25日号）では、昨年11月～12月の第4回区議会定例会のなかで、民主クラブの議員から「平和学習」に関して、「人類としての負の遺産である第五福竜丸展示館を見学させるべき」との質問があり、教育委員会次長による「社会科見学等のコースに取り入れる等働きかける」との答弁が紹介されています。

◇定年時代（1月下旬号）の、「さわやか散歩」のコーナーで夢の島公園がとりあげられ、施設紹介の最初に「第五福竜

丸展示館」が紹介されました。記事を見てきたという来館者もありました。

◇核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ（2月6～8日）に協会として初めて広報ブースをだし安田事務局長が参加しました。7日の分科会では「平和のための博物館として若い世代に伝えるとりくみ」について発言しました。

◇日本山妙法寺の平和行脚の20名は、2月14日に展示館をおとずれ、3・1ピキニデーの焼津にむけて出発しました。協会からは市田真理学芸員が激励の挨拶をしました。

◇案内板設置 新木場駅のコンコースからエレベーターとエスカレーターの間にある夢の島公園への案内をかねた掲示板が設置されました。ここには第五福竜丸展示館、熱帯植物館、東京スポーツ文化館の情報を掲示するスペースが設けられています。

◇2月18日 第五福竜丸を建造した和歌山県古座町（現・串本市）の古座造船所の社主・植村直太郎さんの娘さん、東山温美さん（76歳）が、ご家族と一緒に来館し、当時の思い出を語られました。温美さんが中学の時に建造されたのが第五福竜丸（当初はカツオ船第七事代丸）で、進水の祝い（47年3月20日）には餅まきをして船に乗って古座川の河口を出て周った記憶があり、とても楽しかった、と回想されました。同行した孫にあたる黒川祐子さんは、「祖父が作った船と母から聞き初めて訪れました。こんなに大きな船とは思っていません」と述べていました。

協会評議員会開かれる

公益財団法人発足後最初の評議員会が1月23日、学士会館にて開かれました。主な案件は、当年度、平成21年4月1日より11月1日までの「特例民法法人」の事業・決算報告と基本財産の決定に関してで提案どおり承認されました。